

青少年の 非行防止施策を問う

答 町を挙げて非行防止啓発活動に
努めていく



問 警察庁によると、全国的に高校生年代を中心とした深夜徘徊や飲酒等の少年の補導件数がここ数年でコロナ禍以降再び増加に転じ、少年の非行傾向や相談体制、各関係機関との連携が重要であると示されている。本年5月、6月中に南風原中学校校区において実施した夜間パトロールでは、高校生年代の青少年による非行実態が確認されており、本町の青少年を取り巻く環境に変化が出てきていると感じている。本町青少年の深夜徘徊や非行実態をどのように把握しているか。



夜間パトロールで子どもたちへの声かけ



石垣 大志 議員

生涯学習文化課長 本町青少年の深夜徘徊などの非行実態については、これまで把握できていなかったが、与那原署より資料提供を受けている。

問 本町の未成年の補導の状況はどうなっているか。

生涯学習文化課長 与那原署によると、（令和5年14歳～19歳の補導状況調べ）行為別で飲酒19件、喫煙38件、暴走行為3件、深夜徘徊62件、南風原町合計122件となっている。近隣市町村と比較すると南風原町122件、南城市100件、八重瀬町83件である。

問 今後も補導件数等、非行実態をしっかりと把握し非行防止対策に組み込んでいただきたいが、教育部局として今後どう取り組むか。

生涯学習文化課長 非行防止の観点では、薬物乱用や深夜徘徊など危険性が非常に高いというところで、周知をすることが大事だと考えている。周知については、例えば学校で人権教育や道徳教育、それからSNSやインターネットリテラシー教育なども実際授業の中で行われている。学校や、地域などと連携して、危険性の周知、非行防止について連携して努めていきたい。

一こんな質問もしました
・ウガンヌ前公園管理について